

Technics

クォーツシンセサイザ
FM/AMステレオチューナ

品番 **ST-G7**

取扱説明書

保証書別添



本機の色はシルバーとブラックがあります。説明書の写真はシルバーを載せています。

目次

手入れのしかた	2
特長	2
付属品	2
安全にご使用いただくために	3
各部のなまえとはたらき	4
プリセットメモリーをするには	6
FMやAMを聞くには	8
接続のしかた	9
FMエアチェック(FM放送の録音)について	11
オーディオタイマーの紹介	11
故障?と思うまえに	12
定格	13
アフターサービス	13

■取扱説明書と保証書は、よくお読みのうえ、大切に保管してください。

■保証書は必ず「販売店名・購入日」等の記入を確かめて、販売店からお受取りください。

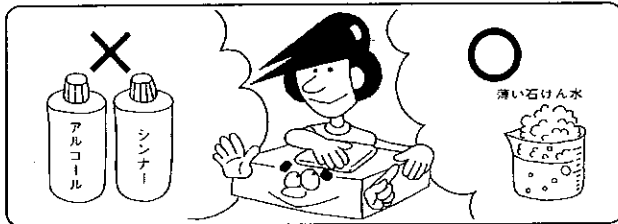
上手に使うって上手に節電

音量は必要以上に大きくしないで、使用後は、忘れずに電源を切って!

このたびは、テクニクスのクォーツシンセサイザFM/AMステレオチューナST-G7をお買い求めいただき、まことにありがとうございました。

手入れのしかた

本機の汚れは、柔らかい布でふきとってください。ひどい汚れは、薄い石けん水に柔らかい布を浸し、固く絞ってふきとった後、乾いた布でふいてください。



ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分にいたしましょう。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。窓を閉めたりヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。



音のエチケット
シンボルマーク

特長

原音忠実再生のテクニクスが、最新のデジタル技術をオリジナリティー豊かに駆使し、高級チューナの性能とFM多局化時代への対応を手頃な価格で実現しました。それが本機：ST-G7です。

高性能 (トリプルクォーツコントロール方式による高性能の安定維持。) (自己演算型同調ループによる高周波特性の長期安定維持。)

周波数特性

DC波形伝送技術で、+0.2dB、-0.5dBの値が4Hzから18kHzまで広範囲に実現。

ワイドレンジ

120dBを実現する低ノイズデジタル方式

ステレオセパレーション

IC内部で信号処理を行う画期的な手段で、20Hzで65dB、1kHzで65dB、10kHzで50dB。

多機能 (256 words RAM, 4K bite ROMのマイコンを存分に活用し、電波の状態に最適に対応。)

FMオートIF切り換え

希望の局の±300kHz以内の妨害波の存在を自動的に検出し、中間周波(IF)帯域幅が狭くなって混信を防止。

録音レベルチェック

FMエアチェック時の録音レベルの調整に便利な、333Hzの基準信号が矩形波で出力(信号レベルは、50%変調分の出力レベルに設定)

多機能LCD集中ディスプレイ

周波数とチャンネル番号の同時表示。IF帯域妨害波のグラフィック表示。FM局の受信信号強度のデジタル表示。

簡単操作 (FM/AMを切り換えずに、ボタンを1つ押すだけで選局可能)

オートプリセットメモリー

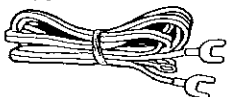
FMかAMを選べば、後はメモリーボタンを押すだけでFMのみならば16局、AMは8局の放送局の周波数を自動的に記憶可能。

一発選局

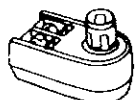
プリセットメモリー(放送局の周波数を記憶)をしておけば、ボタンを1つ選んで押すだけで選局。

付属品

- FM簡易型室内アンテナ



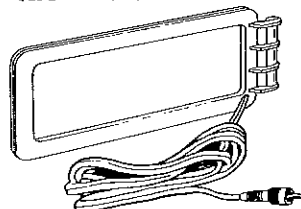
- 300Ω→75Ω変換プラグ



- F型プラグ



- AMループアンテナ



- ホルダ(A)



- ホルダ(B)



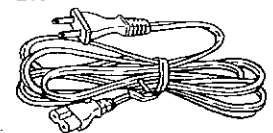
- ねじ



- ステレオピンコード



- 電源コード



安全にご使用いただくために

電源関係のご注意

- 電源電圧は、必ずAC 100V
大型クーラーなどの電圧は、200Vで危険です。

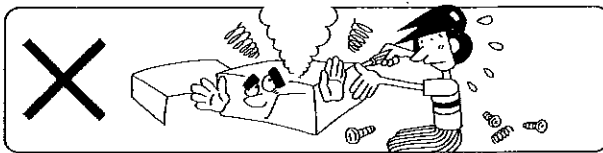


- 電源プラグの抜き差しはぬれた手は危険です。また、必ず電源プラグを持ってはしてください。

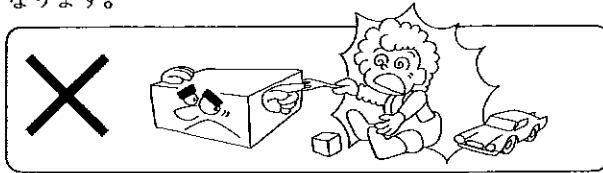


改造・接触などのご注意

- 改造は事故のもと
不用意に内部をさわると感電や故障の原因になります。



- とくにお子様へのご注意
すきまなどから金属物を差し込むと、感電や故障の原因になります。



使用後のご注意

- 長期間使用しないときは、安全のため必ず電源プラグを抜いて
電源プラグを差し込んだまま長期間放置すると、思わぬ事故につながる恐れがあります。



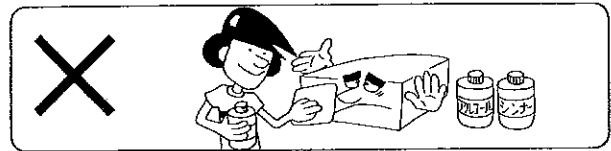
[プラグを抜くとプリセットメモリー(放送局の周波数を記憶)が消えることがあります。消えた場合は、6ページを参照してください。]

薬品・水などのご注意

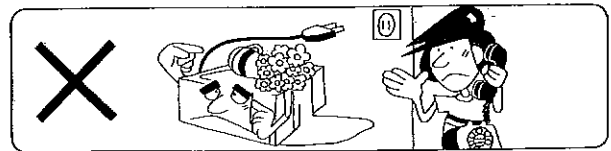
- スプレー式の殺虫剤にご注意を
「ヒビ割れ」や「くもり」、また引火の恐れもありますので、ご注意ください。



- アルコールやシンナーは禁物
塗装がはげたり、くもりが生じます。

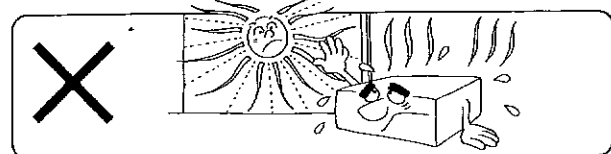


- 水は禁物
火災や感電の恐れがありますので、ただちに電源プラグを抜き取り、お求めの販売店にご相談ください。

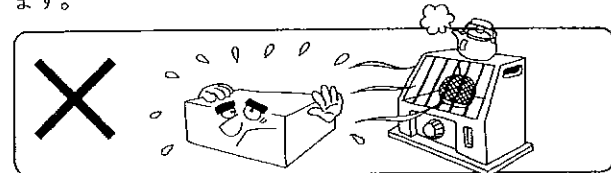


設置場所のご注意

- 直射日光を避け、風通しの良い所へ
壁面より10cm以上離して設置してください。



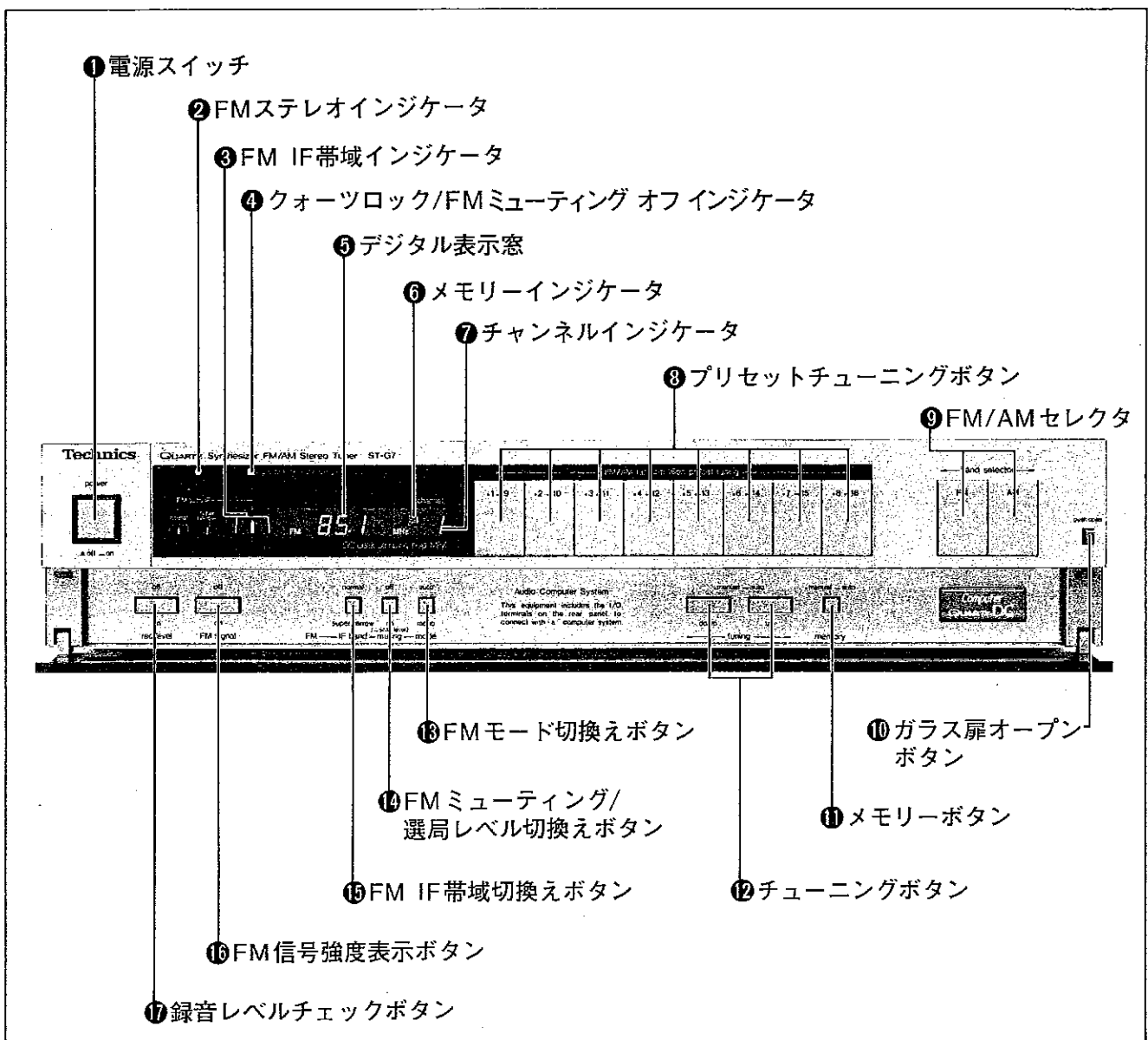
- ストープの近くには置かないで
キャビネットや部品をいため、寿命を短くする原因になります。



万一故障が起きましたら

使用中に音が出なくなったり、また異様なにおいや煙が出た場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き取り、お求めの販売店または最寄りの「ご相談窓口」(別紙ご参照)にお問い合わせください。

各部のなまえとはたらき



①電源スイッチ(power)

注：本機では、ラストワンメモリーとプリセットメモリー機能を維持するために、このスイッチを切っても約5ワットの電力を消費しています。

ラストワンメモリーとは：

電源スイッチを「off」にするときに聞いていたFMまたはAMの放送局をメモリー（記憶）する機能で、この機能により、次に電源を「on」にするとき「off」にするときに聞いていた放送局を聞くことができます。

プリセットメモリーとは：

希望の放送局をメモリー（あらかじめ記憶させておくこと）する機能で、プリセットメモリーをしておくと、後はボタンを押すだけで簡単に選局できます。

②FMステレオインジケータ(stereo)

FMモード切換えボタン⑬を押して「mono」にした場合は、点灯しません。

③FM IF帯域インジケータ(FM auto IF)

normal

希望の局の電波が強く妨害波が少なければ、マークが点灯します。

super narrow

希望の局の電波が弱いときや妨害波が混入したときに、マークが点灯します。

▲マークの点灯は：

選局した周波数が放送局の送信周波数に正確に同調した場合に点灯します。

④クォーツロック/FMミュートオフインジケータ(quartz lock/FM muting off)

選局した周波数が放送局の送信周波数に正確に同調した場合と、FMミュート/選局レベル切換えボタン⑭が「off」の場合に点灯します。

⑤ デジタル表示窓

FMまたはAMの周波数、FMの選局レベルや録音レベル信号の周波数、およびFM放送の信号強度などが表示されます。

⑥ メモリーインジケータ

プリセットメモリー用のインジケータです。
(プリセットメモリーのしかたは、6ページをご参照)

⑦ チャンネルインジケータ

プリセットチューニングボタン⑧で選局したチャンネル番号を表示します。

⑧ プリセットチューニングボタン (FM/AM random 16ch preset tuning)

放送局をプリセットメモリーする場合と、プリセットメモリーした局を選局する場合に使用します。
ボタンを押すと、チャンネル番号とメモリーした周波数が表示されます。
(プリセットメモリーのしかたは、6ページをご参照)

⑨ FM/AMセレクトア(band selector)

FMを聞くとときは「FM」、AMを聞くとときは「AM」を押します。

⑩ ガラス扉オープンボタン(push open)

⑩～⑰のボタン類を操作する場合は、このボタンを押してガラス扉を開いてください。
押すと下のガラス扉がダンブ機構でゆっくり開きます。

⑪ メモリーボタン(memory)

放送局をプリセットメモリーする場合に使用します。
(プリセットメモリーのしかたは、6ページをご参照)

⑫ チューニングボタン(tuning)

放送局を選局するボタンです。
ボタンを軽くポンと押すと、FMは0.1MHz(100kHz)、AMは9kHz毎に周波数に変化し、ボタンを少し長く押しと離すと放送局をオート(自動)で選局して止まります。

⑬ FMモード切換えボタン(mode)

本機ではステレオ受信とモノラル受信の切り換えは自動的に行なわれています。
FMステレオ放送で雑音が多い場合はこのボタンを押してモノラル受信に切り換えてください。

⑭ FM ミューティング/選局レベル切換えボタン(muting)

FM放送のミュート機能の切り換えと、FM放送局をオート(自動)で選局するときの受信電波のレベルを設定する場合に使用します。

ミュート機能:

電源を入れると、自動的に「^{オン}on」の状態になります。
チューニングボタンを操作すると、「^{オフ}off」の状態になり、放送電波の弱い局でも音切れがなくなり安定した受信が行われます。この状態では、クォーツロック/FM ミュー

ティングオフインジケータが点灯します。

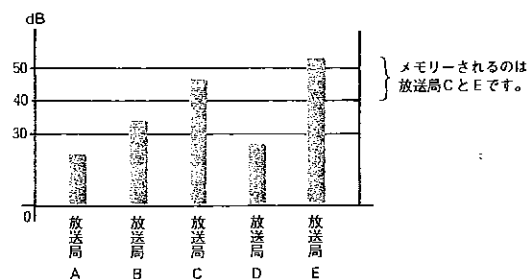
局間雑音が出る場合は、ボタンを軽くポンと押し「^{オン}on」の状態にしてください。ただし、この状態では放送電波の弱い局は除去されます。

選局レベル(scan level)機能:

FM放送をオート(自動)で選局する場合の選局レベルを設定するときは少し長く押しと、デジタル表示窓にレベルが30, 40, 50の順で現われますので、設定したい表示のところで離してください。

設定したレベル以上の局を受信することができ、レベルが大きい程電波状態の良い局がメモリーされます。

● 40dBにレベル設定した場合(オートの場合のみ)

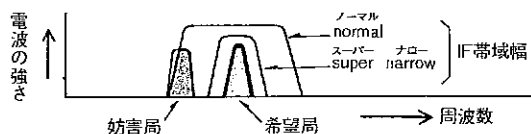


⑮ FM IF帯域切換えボタン(IF band)

希望の局の近くに異った放送局がある場合は、その影響により妨害雑音を受けます。

本機は、このような場合にIF(intermediate frequency: 中間周波)帯域幅を自動的に「^{スーパー}super narrow」(帯域幅が狭くなる)に切り換え、妨害局を除去しています。

なお、ボタンを押すと、マニュアル操作で帯域幅を切り換えることができます。...



⑯ FM信号強度表示ボタン(signal)

FM放送の信号強度(放送を受けている信号の強さ)を確認する場合に使用するボタンで、数字が大きくなるほど電波状態が良いことを表わします。

ボタンを押すと、2dBステップで表示され、50dB以上になると数字とdBの間に「小数点」が表示され、電波状態の良い局を受けていることを表わします。50dBより低い場合は、外部アンテナを設置してください。

⑰ 録音レベルチェックボタン(rec level)

FM放送を録音するときの録音レベルの調整に使用します。

ボタンを押すと本機の出力端子から 333Hz (表示窓には ^{キャリ}CAL ⇔ 0.33kHz が表示される) の信号が出てきますのでテープデッキで録音レベルを調整してください。

(録音レベルの調整は、11ページをご参照)

プリセットメモリーをするには

プリセットメモリーをする前に

- 本機は、FMとAMの放送局を合計16局プリセットメモリー(放送局の記憶)することができますので、後は、ボタンを押すだけで簡単に選局できます。
- FM放送をオート(自動)で選局する場合は前もってレベル設定をしておくとも便利です。(設定のしかたは右ページご参照)

プリセットメモリーの方法には

- オート(自動)による方法:
FMの放送局のみの場合はCH1~CH16に、AMの放送局はCH9~CH16に自動的にメモリーされます。(ただしFMのCH9~16にメモリーした局はAMをメモリーすると消えます。)
- マニュアル(手動)による方法:
CH1~CH16のどのチャンネルにでも、FMとAMの放送局を自由にメモリーできます。

メモリーを消さないためのご注意

プリセットメモリーとラストワンメモリーを保持するために本機ではゴールドキャパシタを使用していますので、電源を長期間切った場合でも、約1週間はメモリーが保持されます。ただし電源が1週間以上切れた場合はメモリーが消えることがありますので、このような場合は、プリセットメモリーをやり直し、30分間は本機を通電状態にしてください。

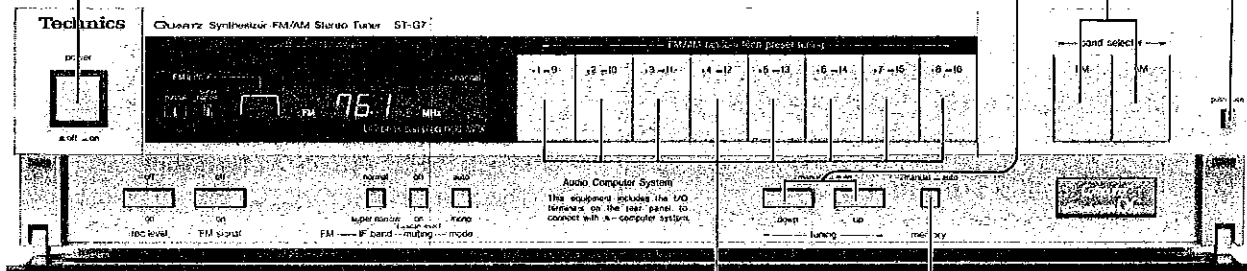
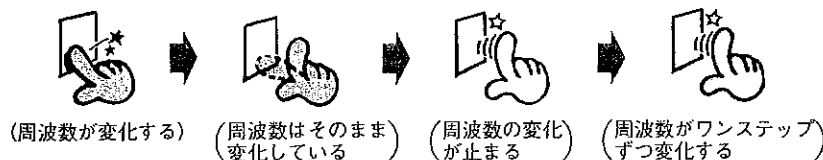
オート(自動)によるプリセットメモリー

①「^{オン}On」()にする。(電源が入る)

②「FM」または「AM」を選ぶ。

③ いちばん低い周波数(FM: 76.1MHz, AM: 522kHz)に合わせる。

- ①ボタンを ②いちばん低い ③再度ボタンを ④軽くポンと押し、
少し長く押す。 周波数付近で 軽くポンと押し。 周波数を合わせる。
ボタンを離し、



扉を開けるときは押す。

⑤ メモリーした放送局を確認する。

CH1~CH8を確認するとき

軽くポンと押す。

チャンネルと周波数が
出る。



周波数	チャンネル
85.1	1

CH9~CH16を確認するとき

少し長く押す。

チャンネルと周波数が
表示されたら離す。



周波数	チャンネル
131.4	9

(放送局は8ページの記録シートに記入する。) 以上でプリセットメモリーは完了です。

④ ボタンを押して周波数が
変化し始めると離す

(低い周波数の局から自動的にメモリーされます。なお、電波の弱い局はメモリーされません。)

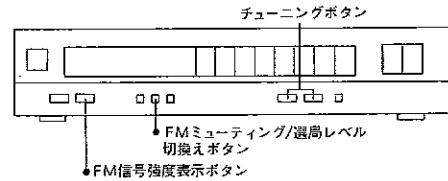
ご注意: ボタンを押している間はメモリーされません。

レベル設定のしかた

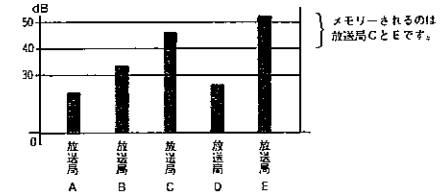
FM放送をオート(自動)で選局する場合は、レベル設定をしておくとう便利です。数値が大きい程雑音が減り電波状態の良い局がメモリーされます。

(注. 設定したレベルより電波の弱い局は受かりません。)

- ① FM ミューティング/選局レベル切換えボタンを少し長く押し、30の表示で離す。
- ② チューニングボタンで放送局を選び、FM 信号強度表示ボタンでレベルを確認する。
- ③ FM ミューティング/選局レベル切換えボタンを少し長く押し、希望のレベル表示のところまで離す。



● 40dBにレベル設定した場合



マニュアル(手動)によるプリセットメモリー

- ① 「**On**」()にする。
(電源が入る)

- ② 「FM」または「AM」を選ぶ。

- ③ 放送局を選ぶ。

オートで選局するとき
周波数が変化すると離す。

マニュアルで選局するとき
軽くポンと押す。

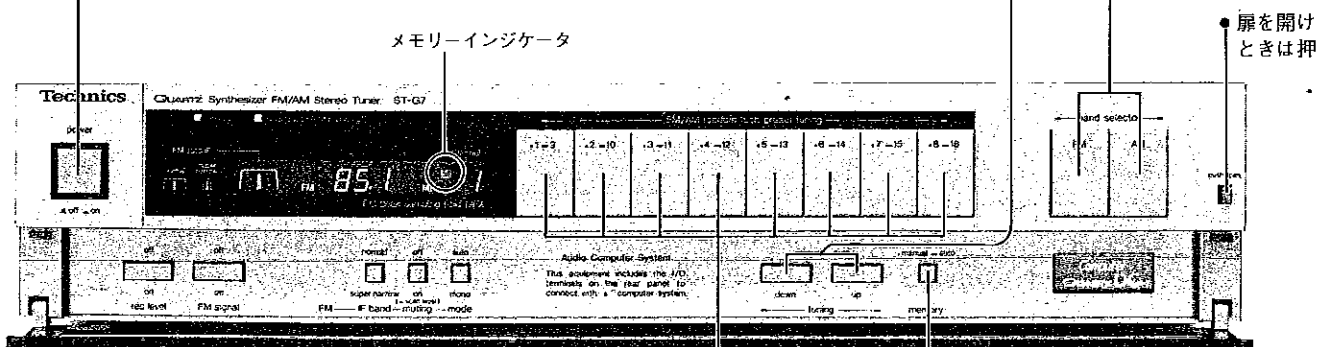


(自動選局され、
周波数の変化が止まる。)



(周波数がワンステップ
ずつ変化する。)

希望の局が選局されるまで、同じ操作を繰り返す。



- ⑤ メモリーインジケータが点灯中に希望のチャンネルボタンを押す。

CH1~CH8にメモリーするとき

CH9~CH16にメモリーするとき



軽くポンと押す。



少し長く押す。

- ④ ボタンを軽くポンと押す。



(メモリーインジケータが
約5秒間点灯する)

(注. ボタンを押す前にメモリーインジケータが消えたときは、メモリーされません。)

以上でプリセットメモリーは完了です。

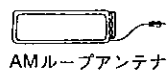
他のチャンネルボタンにも同じ要領でメモリーしてください。
メモリーした放送局名は、8ページの記録シートに記入する。

ご注意: 誤って長く押すと周波数が変化し始め、オートでメモリーされます。(6ページご参照)

1つのチャンネルに2つ以上の放送局をメモリーしたときは
以前にメモリーした放送局は消去され、後からメモリーした放送局が
メモリーされます。

FMやAMを聞くには

忘れてませんか？



AMループアンテナを接続しないとAM放送は聞けません。
(接続は、9ページご参照)

FMやAMを聞くまえに

6ページの「プリセットメモリー」はお済みですか？
プリセットメモリーをしておくと、後は、プリセットチューニングボタンを押すだけで簡単に希望の放送局が選べます。

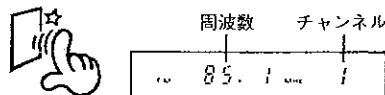
① アンプを操作し、FMやAMを聞く状態にする。

② 「**on**」()にする。
(電源が入る。)

③ 希望のチャンネルを選ぶ

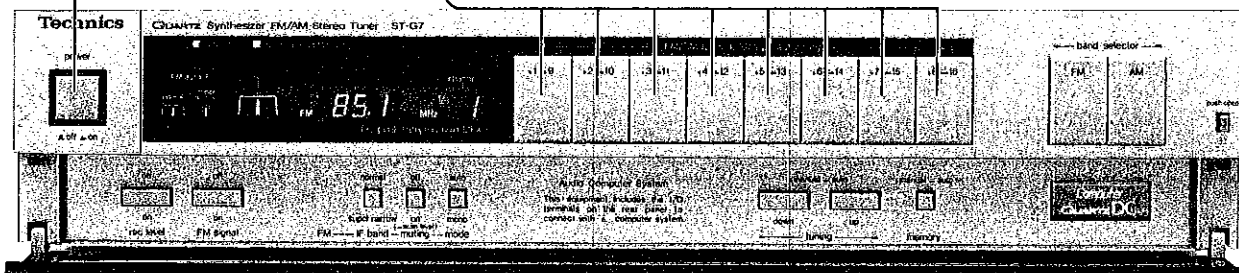
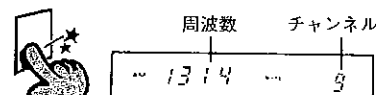
CH1～CH8を選ぶとき

軽くポンと押す チャンネルと周波数が出る。

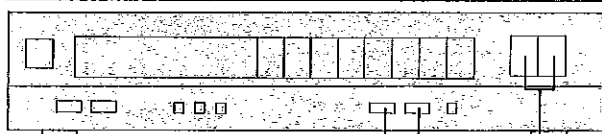


CH9～CH16を選ぶとき

少し長く押す チャンネルと周波数が表示されたら離す。



放送局をメモリーしていないとき



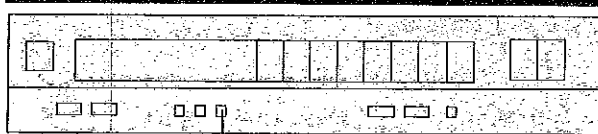
- ① 「FM」または「AM」を選ぶ
- ② ボタンを押し、周波数が変わると離す。
(放送局を自動的に選ぶ)

希望の局が受かるまで同じ操作を繰り返す。
(この場合、レベルの設定が高すぎると受かりません。)
レベル設定のしかたは、7ページご参照。

電波が弱く受からないときは、

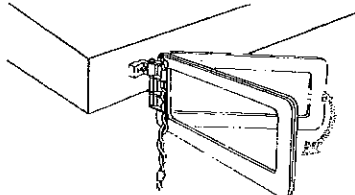
1. その周波数付近でボタンを軽くポンと押す。
(周波数表示が止まる)
2. 再び、軽くポンと押して希望の周波数に合わせる。
(周波数がワンステップずつ変化する)

雑音が多いとき



● FMステレオ放送の場合は、
押して「mono」にする。

● AM放送の場合は、
AMループアンテナを動かす。



聞きやすい方向を捜す

記録シート (メモリーした放送局を記録しておくくと便利です)

CH	1	2	3	4	5	6	7	8
放送局								
周波数								
CH	9	10	11	12	13	14	15	16
放送局								
周波数								

接続のしかた

FM, AM放送ともよい音質で受信するため、屋外アンテナの設置をお勧めします。

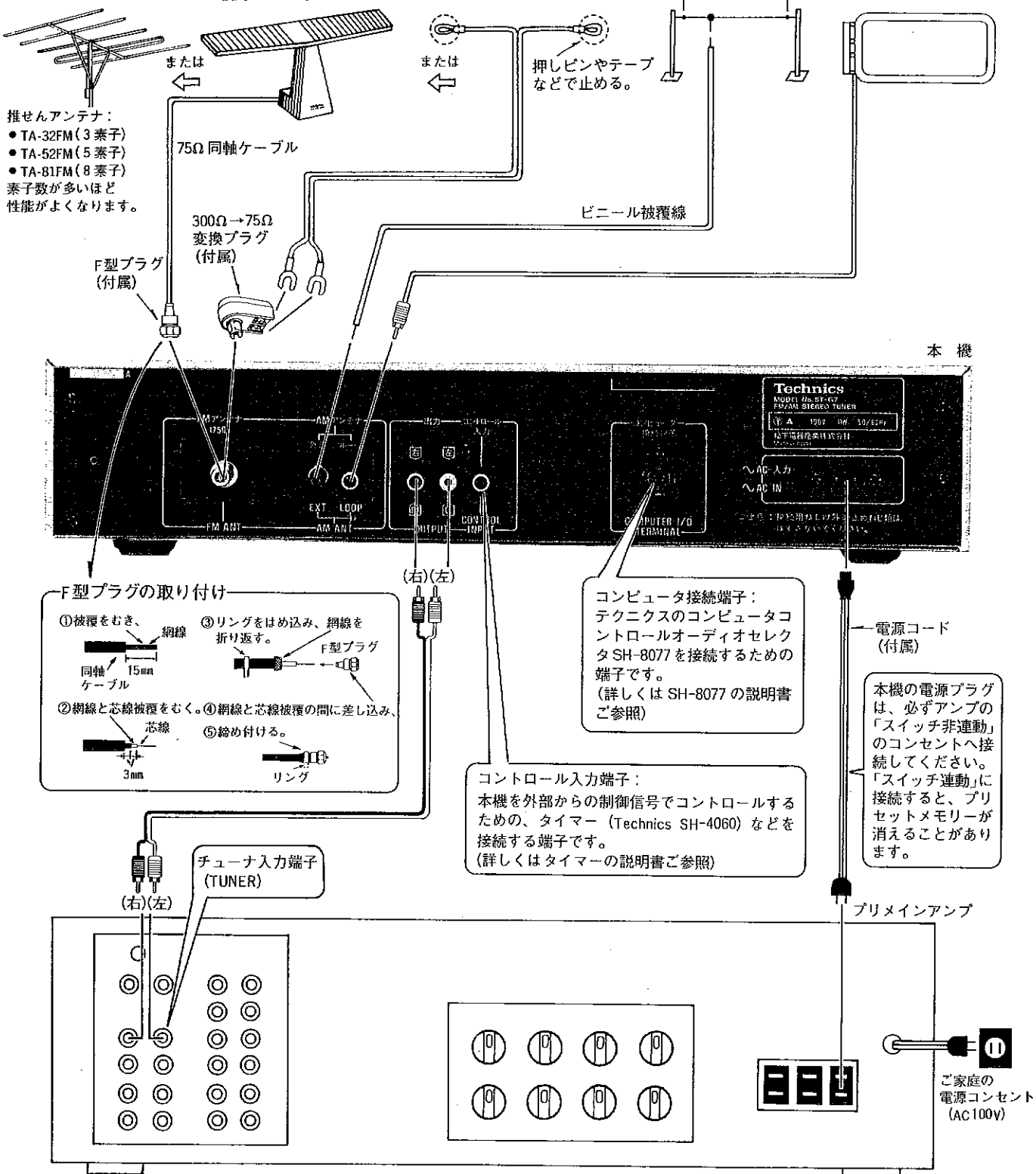
FM屋外アンテナ
(山間部や鉄筋ビル内など、電波の弱い地域では必要です。)

FM室内ウィングアンテナ
(Technics FM ウィングアンテナ: SH-F100)
注: このアンテナは室内専用型です。電波の強い地域でご使用ください。

FM簡易型室内アンテナ (付属)
T字型に広げもっとも聞きやすい高さや方向を捜し、取り付け。

AM屋外アンテナ
(山間部や鉄筋ビル内など、電波の弱い地域では必要です。)

AMループアンテナ (付属)
もっとも聞きやすい高さや方向を捜し、壁やラックなどに取り付ける。
(取り付け方は右ページをご参照)



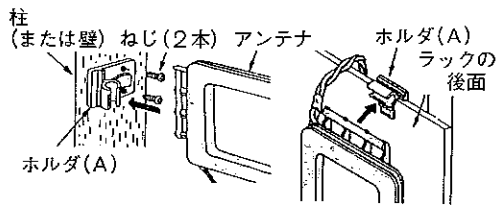
AMループアンテナの取り付け

1 柱やラックなどへ取り付ける。

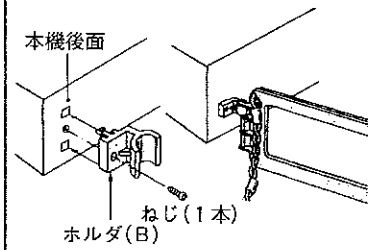
感度が良く雑音の少ない放送を聞くために：

- なるべく柱や壁、ラックなどへ取り付ける。
- 水平に取り付けない。
- 電源コード、スピーカコード、カセットデッキや金属面に近づけない。

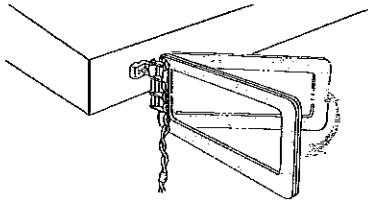
柱や壁、ラックへの取り付け
雑音が最も少くなる位置に取り付ける。



本機への取り付け



2 放送が最もよく聞こえる位置を選ぶ。



F M 屋外アンテナの設置場所

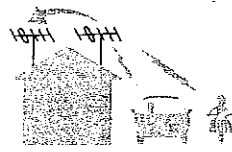
1. 建物の陰にならず、FM放送電波を直接受ける所へ！
正しい設置でマルチパスひずみ防止！



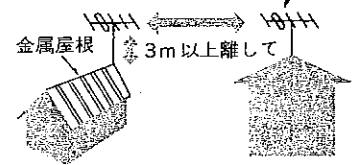
アンテナの指向特性範囲内から反射波をはずす。

マルチパスひずみとは：
近くの山やビルに反射した電波(反射波)と送信所からの電波(直接波)の干渉によるひずみ。

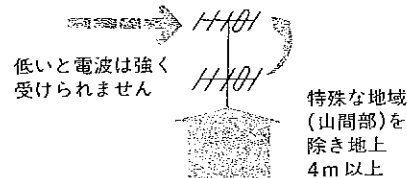
2. 雑音源(ネオン看板など)から離して！



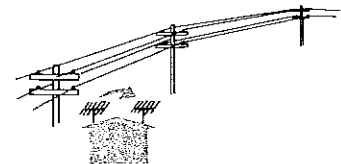
4. 金属屋根や他のアンテナからは、3m以上離して！
他のアンテナ



3. できるだけ高く！



5. 送電線の近くは危険！



FMエアチェック (FM放送の録音) について

FM放送を録音する場合、録音前に録音レベルを調整しなければなりません。その放送が始まっていないために、最適値を求めるのに苦労します。

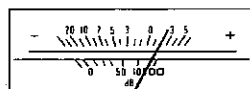
本機は、録音前に最適値を求めるのに便利な、録音レベルチェックボタンを設けていますので、録音レベルが簡単に調整できます。

調整は下記の手順で行ってください。

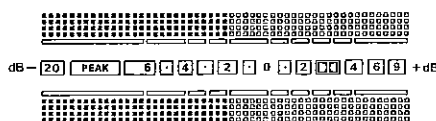
(基準信号は矩形波で、信号レベルは50%変調分の出力レベルに設定されています。)

1. 本機の録音レベルチェックボタン⑰を押す。
(デジタル表示窓に「CAL→0.33kHz」が表示され、録音レベルチェック信号が出る。)
2. テープデッキの入力レベル調整つまみで、録音レベルを調整する。(右図参照)
3. 録音レベルチェックボタン⑰を押し、周波数表示に戻す。

- VUメータ、レベルメータの場合
指針が「+2」VU、「+2」^{デシベル}dB付近を指すように調整します。



- ピークレベルメータの場合
表示が「-2」^{デシベル}dB付近になるように調整します。



ご注意

録音中は、録音レベルチェックボタンを押さないでください。ボタンを押すと録音が途切れます。

オーディオタイマーの紹介

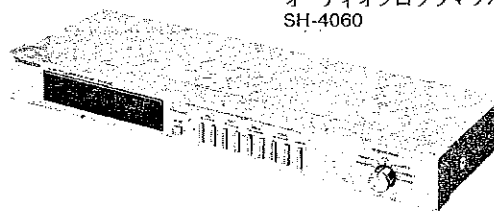
Technics SH-4060は、数多くの優れた機能を、低価格で実現したオーディオタイマーです。

時刻は、クォーツ発振で月差0～±10秒以内の正確な時を刻みます。

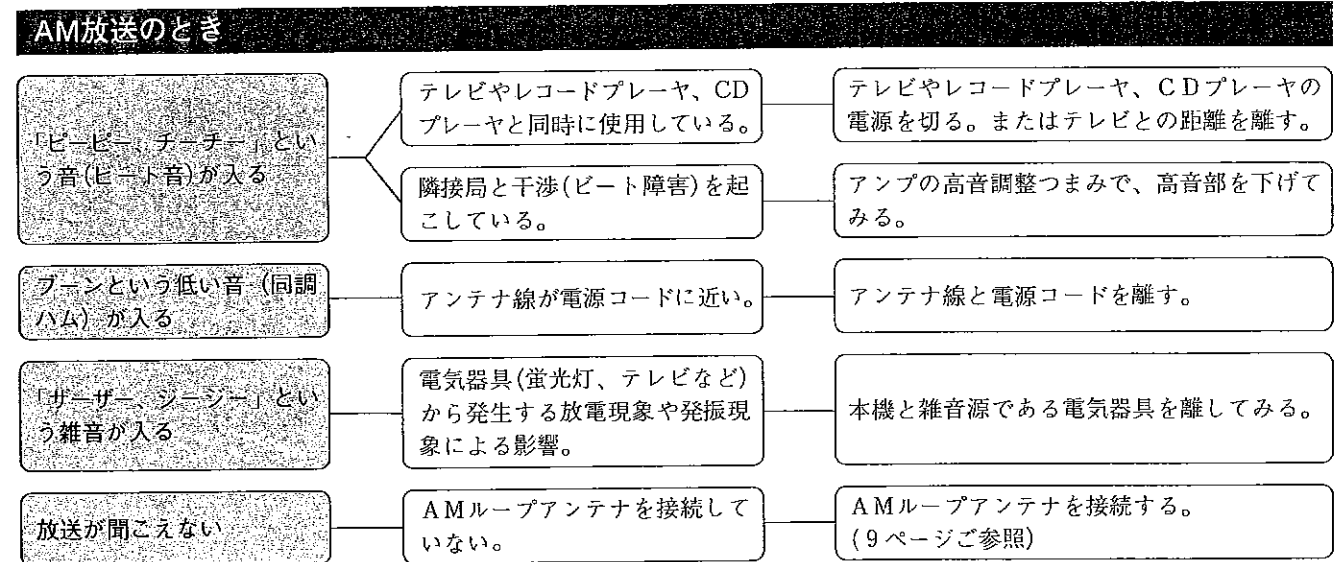
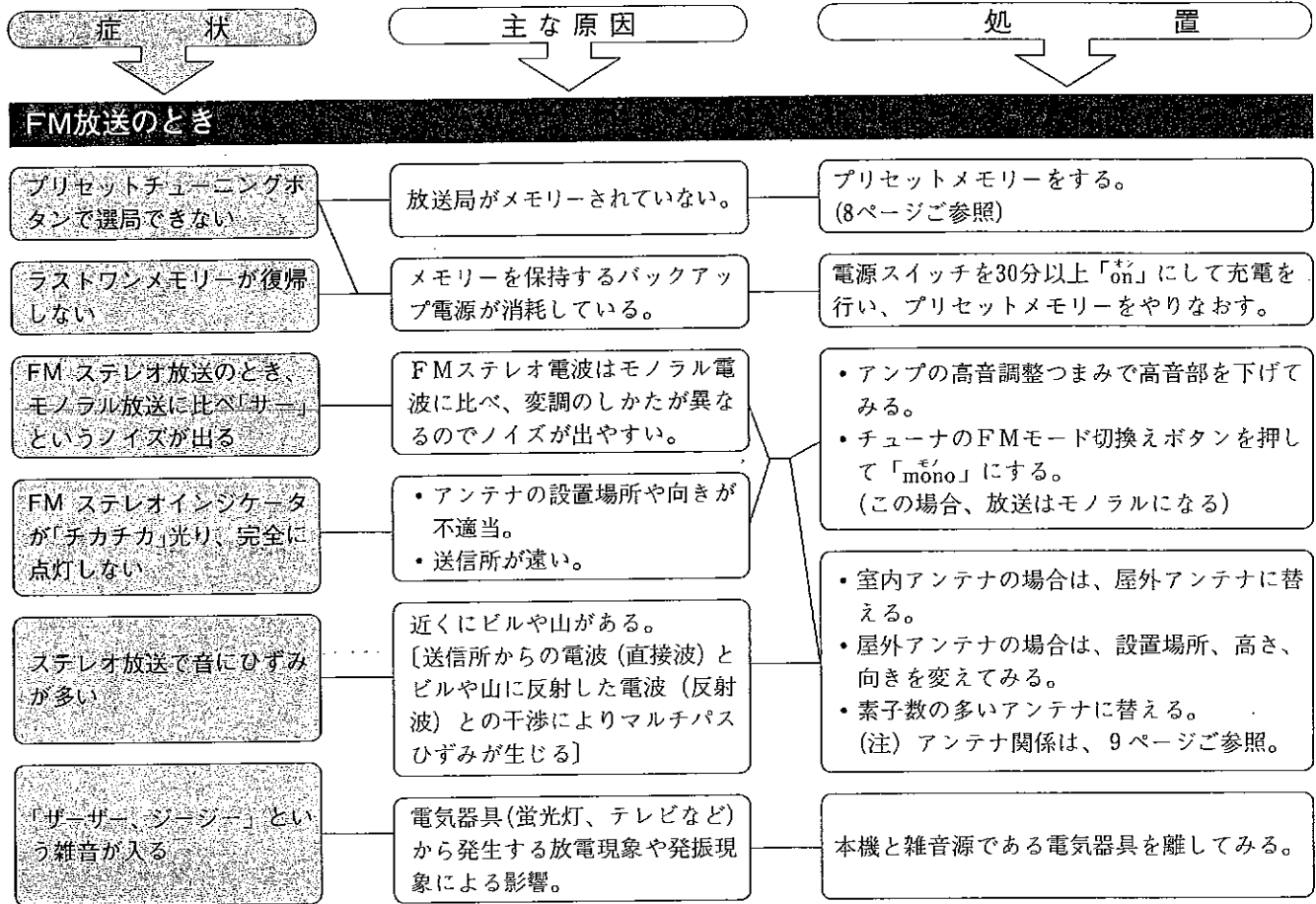
電源を^{オン}にする曜日は、各曜日はもちろんのこと、まとめて1週間、日曜日を除く毎日など、5種類の設定が行えます。

さらに、本機(ST-G7)のように、コントロール入力端子とプリセットメモリー機能をもったテクニクスのチューナと組み合わせると、電源を^{オン}にしたときに、聞きたい放送局のチャンネル番号も指定することができます。

Technics
オーディオプログラマブルタイマー
SH-4060



故障!?!と思うまえに



定 格

FMチューナ部

受信周波数帯	: 76.1~89.9MHz (100kHz step)
実用感度	: 12.8dBf 1.2 μ V (IHF '58)
50dB(S/N)感度	
mono	: 18.1dBf 2.2 μ V (IHF '58)
stereo	: 38.1dBf 22 μ V (IHF '58)
全高調波歪率	
mono	: 0.007% (normal)
stereo	: 0.008% (normal)
ダイナミックレンジ	: 120dB
周波数特性	: 4Hz~18kHz \pm 0.3dB
実効選択度	
normal	: 55dB (\pm 400kHz)
super narrow	: 25dB (\pm 200kHz)
キャプチャレシオ	: 1.0dB
イメージ妨害比(83MHz)	: 90dB
IF妨害比(83MHz)	: 110dB
スプリアス妨害比(83MHz)	: 105dB
AMサプレッション	: 70dB
ステレオセパレーション	
(20Hz)	: 65dB
(1kHz)	: 65dB
(10kHz)	: 50dB

リークキャリア(19kHz)	: -70dB
アンテナ端子	: 75 Ω (同軸型)

AMチューナ部

受信周波数帯	: 522~1629kHz (9kHz step)
実用感度(S/N 20dB)	: 20 μ V, 290 μ V/m
選択度(\pm 9kHz)	: 55dB
イメージ妨害比(999kHz)	: 40dB
IF妨害比(999kHz)	: 60dB

総 合

出力電圧	: 0.65V
消費電力	: 11W
(電源スイッチ「off」のとき)	: 5W
電源	: AC 100V 50/60Hz
寸法(幅×高さ×奥行)	: 430×99×276mm
重量	: 4.1kg
停電補償	: 約1週間

アフターサービスについて

■保証書

保証書は販売店からお渡し致しますから、必ず「販売店名・購入日」等の記入をお確かめになり、保証書内容をよくお読みの後、大切に保存してください。

保証期間—お求めの日から1年間です。

■保証期間中に修理を依頼されるとき

もう一度取扱説明書をよくお読みいただき、ご確認のうえ、なお異常のあるときには、必ず電源プラグを抜いてから、お求めの販売店に保証書を添えて修理を依頼してください。保証書の記載内容により、販売店が修理致します。

(連絡していただきたい内容)

- ・ご住所・ご氏名・電話番号
- ・製品名・品番・ご購入日(保証書をご覧ください。)
- ・故障内容・異常の状況(できるだけ詳しく)
- ・訪問ご希望日

■保証期間経過後、修理を依頼されるとき

お求めの販売店に、まずご相談ください。修理により製品の機能が維持できる場合には、ご希望により有料で修理致します。

■補修用性能部品の最低保有期間

本機の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。

この期間は通商産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■保証期間中の修理などアフターサービスについて ご不明な点は

お求めの販売店または最寄りの「ご相談窓口」(別紙ご参照)にお問い合わせください。

■アフターサービスのほか、取り扱いや使用上ご不明な点などにつきましては

お求めの販売店、最寄りの「ご相談窓口」又は当社(説明書の裏表紙ご参照)にお問い合わせください。

- 修理を依頼されるときのためにメモしておく便利です。
- 「最寄りの当社ご相談窓口」は別紙のサービス店リストをご参照ください。

購入店名	住所 ☎ ()	ご購入年月日	昭和 年 月 日
最寄りの当社 ご相談窓口	住所 ☎ ()	品 番	ST-G7

松下電器産業株式会社 ステレオ事業部

〒570 大阪府守口市松下町2番地 ☎ (06) 992-1551

SQF20659
S1083K0